

# 平成26年度 学校評価実施報告書

## 3 2回目評価

学校名( 京都市立養徳小学 )

重点評価項目について評価・改善していくための個別評価項目の設定 ・各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定						自己評価		学校関係者評価			
						評価日	平成27年2月26日	評価日	平成27年3月5日		
						評価者・組織	学校評価委員会	評価者(いずれかに○)	学校運営協議会 学校評議員		
	分野	評価項目	自校の取組	アンケート項目・各種指標	アンケート結果・各種指標結果		分析 (成果と課題)	自己評価に 対する改善策		学校関係者評価に よる意見	学校運営協議会・学校 評議員による改善 に向けた支援策
1	確かな学力	おもいや考えを表現する力 読書活動の充実 家庭学習の習慣化	掲示板での言葉の広場 や各教科での言語活動 のさらなる充実 朝読書の充実 読み聞かせボランティア 読書100冊の定着 学校便り等による啓発	話す・聞く話型の統一。 ジョイントプログラム等 の結果 ・朝読書や読み聞かせ を通して読書の楽しさを 味わっている。 ・時間を決めて勉強をし ている。	全市平均より2～3ポ イント上回った。 「できている」児童・保護 者の割合は82%（前期 比－4ポイント） 「そう思う」児童・保護 者の割合は66%（前期比 ＋1ポイント）	⇒	教職員の「めあてをはっきり させて授業をすること」の 指導が評価となって表れ、9 0%の児童が「勉強はよく分 かる」、83%の保護者が 「学習内容を理解している」 と回答があった。 毎朝の読書活動で本に親 しみ、静かに読書する児童 に育った。	「よく分かる板書をするこ と」や「ノート指導」をさら に進め、基礎基本の定着を図 ると共に家庭学習の大切さを 子どもたちと話し合ったり、 情報を発信したりしていく。 考えや思いを表現できる子 の育成に向け、「話の聞き 方」や「発表の仕方」等、聞 く話す力を育てていく。	⇒	・子どもが変わってきた。 学校の教育が良かった。 ・子どもたちも元気に学 校に行っている。	・図書室の紹介をどん どんし利用が増えるよう に宣伝して、本に親し んでほしい。
2	豊かな心	人権教育の充実 規範意識の育成 豊かな心の育成	「ともだちの日」の取組 学校のきまりの確認・徹 底 ソーシャルスキルトレー ニングの活用	「ともだちの日」の振り返り。 ・仲間を大切に する気持ちが育 っている。 ・学校や学級のきまりを 守っている。 ・友達や家族が悲しくなる ようなひどい言葉遣いをし ないように気をつけている。	「そう思う」児童・保護 者の割合は94%（前期比 ＋3ポイント） 「できている」児童・保護 者の割合は81%（前期 比同ポイント） 「そう思う」児童・保護 者の割合は87%（前期比 ＋2ポイント）	⇒	保護者の「仲間を大切に する気持ちが育 っている」項 目で、重要度 も実現度も一 番高いポイント であった。 ソーシャルスキ ルトレーニン グを継続的に 行ってきた結 果、情操を育 むことにつな がっている。	「指導しきる」指導を続け 規範意識の向 上にさらなる 努力を行う。 自尊心を高め 自己肯定感を 持たせること により、自他 を大切にする 子の育成に 努める。 「伝統・文化 を大切にす る心を育てる 」教育をさら に進めていく。	⇒	・先生方も子どもたちも 来校者に挨拶を している姿をよく 見かける。挨拶 をする子が増え た。 ・子どもたちにル ールを守らせる ように厳しくや っていたら良い。	・地域・家庭と連 携して規範意識 の向上化を図 る。 ・ゲストティー チャーを招いて 、地域と連携を して子どもたち を見守り育んで いく。
3	健やかな体	基本的生活習慣 の確立 体力向上	早寝・早起き・朝 ごはんの呼びかけ 生活点検表 全校マラソンの取 組 部活動の推奨	・早寝・早起きを している。 ・朝ごはんを毎 朝食べている。 ・業間マラソンの 実施。 ・児童の外遊び・ 部活動を推進す ること。	「そう思う」児童の割 合は97%（前期比 同ポイント） 「できている」教職員 の割合は79%（前 期比＋1ポイント）	⇒	朝食の大事さが定着して きたが、まだ数人朝 ごはんを食べず に登校してきて いる児童が いる。 冬時間になり 生活時間がど うしても遅く なる傾向にあ る。	引き続き朝食・基本的な 生活習慣の大 切さを学校便 り・保健便り 等で家庭に呼 びかけていく。 マラソン大会 などで体力向 上を目指して いる。	⇒	・朝食を取れない・取 らないのは良く ない。 ・世の中の虐待 に注意を払っ ていきたい。隣 ・近所で見守 っていく。	・「早寝・早起き・朝 ごはん」の大 切さについて 児童の意識化 を図れるよう に保健指導等 の取組のさら なる充実を図 る。
4	独自の取組	安全教育・安全 管理 小中一貫教育の 推進 情報発信の充実	セーフスクール指 定校 3校合同研修会 の実施 ホームページの 更新	・計画的な安全 教育を行い、 児童自ら考 え判断して 安全に行動 できる力を 育てる。（教 職員） ・小中一貫 教育を推進 する。（教職 員） ・学校ホーム ページが充 実する。（教 職員） ・よく分 かる学校・ 学級だより が発行さ れること。	「できている」教職員 の割合は94%（前期 比＋10ポイント） 「できている」教職員 の割合は41%（前期 比－9ポイント） 「できている」教職員 の割合は77%（前 年比＋3ポイント）	⇒	文科省のセーフ スクールの指 定を受けて2 年目、緊急 地震速報装 置を使って の避難訓練 を年9回実 施し、安全 を意識する 児童に育 った。 小中連携 として中 学校から の出前授 業、ふれあ いコンサ ートなど 実施して きた。	教職員の 実地安全 研修も年 3回行い、 その成果 を研究 発表大会 で発信す ることが できた。 ホーム ページ上 でも安全 教育を発 信し、学 年からの 更新頻度 を上げた。	⇒	・ホームページ でも安全の 情報がア ップされ ていて、 子どもを 安心して 送り出 せる。 ・スマホや Ipadなど の使用に 、家庭に よっての 温度差が 感じら れる。	・登下校時の 防犯や安 全パト ロール など子 どもを 見守る ていく ことで 、挨拶 もでき 繋がり を強く するこ とにな る。 ・情報モ ラル、 ケイタイ ・スマ ホの危 険性を 指導し ている。

## 4 総括・次年度の課題

- ・確かな学力の定着に向け、さらなる取組の充実を図り、教員の発問の仕方や授業構成等の改善を図っていく。
- ・学校評価を通じ、保護者や地域の方に本校の教育活動について、理解を深めていただくことができた。
- ・次年度に向けてアンケート項目に、学校教育目標・安全教育と関連したものを増やしていく。
- ・小中9年間の教育目標の具現化に向け、小中学校で評価項目やアンケート項目を統一し、経年変化を見ていけるようにしていきたい。